第1回市議会定例会終わる

教育委員に村井稔正氏・中嶋孝氏
監査委員に松井義憲氏

3月5日から開かれていた平成25年第1回市議会定例会は、一般会計予算など41議案についていずれも原案どおり可決され、22日に閉会しました。

3月18日に再開された本会議では、中西議員、荻原議員、寺井議員、市本議員より一般質問が行われ、すべての質問が終了し、散会しました。

22日に再開された本会議では、最初に天理市立病院改革特別委員会の経過について、委員長より報告されました。

続いて、人事案件が上程され、教育委員のうち、3月31日付で任期満了となる教育委員に村井稔正氏（森本町）、中嶋孝氏（西長柄町）がそれぞれ選任同意されました。

また、監査委員のうち、3月31日付で任期満了となる別所矩佳氏の後任として、松井義憲氏（檜垣町）が選任同意されました。

そのあと、各常任委員会及び予算審査特別委員会に付託されていた平成25年度一般会計予算など41議案について各委員長より報告があり、すべて原案どおり可決されました。

最後に、4決議案「虐待を受ける障害者の一時保護に対する奈良県の支援措置の拡充を求める決議について」「速やかな取調べの可視化（取調べの全過程の録画）の実現を推進する意見書について」「ブラッドパッチ療法の保険適用及び脳脊髄液減少症の診断・治療の推進を求める意見書について」「リニア中央新幹線中間駅を天理市に設置することを求める意見書について」がそれぞれ上程され、いずれも原案どおり可決されて本定例会を閉会しました。

なお、4月1日に行われた臨時教育委員会で、同日付をもって引き続き村井稔正氏が教育長に就任することが決定されました。

教育長
村井　稔正氏

教育委員
中嶋　孝氏

監査委員
松井　義憲氏

102.

いきいき家族の健康カルテ

在宅緩和ケア
―日常と非日常―

【奈良県医師会】

日常生活の中での医療を支えるのが、在宅医療です。在宅医療においては、多くの場合、病気の治癒を目指すよりも、療養者一人ひとりの身の丈に応じた「生命の質（QOL）」が第一といった考え方が大切にされます。

その昔、容易なことでは病気の治ることない時代、すなわち医学や医術が未発展の時代には、療養者を和ませ、苦痛を和らげ、安心させる術（すべ）（広い意味での「緩和ケア」）は、病める人に寄り添う看護や介護でした。

しかし、医療が進歩するにつれて、手を加え医療を駆使して病気を「治癒させる」ことが苦痛を和らげる最も効果的な方法と考えられるようになりました。「治らない病気もある」ことに気づきながらも、いつの間にか「治癒させる」ことに邁進（まいしん）する医療が主役になりました。「病院に行けば、医療にかかれば、病気を治せば…」という風潮ができあがってきました。「20世紀は病院の世紀」だといわれるゆえんです。

病院での入院医療は、ともすれば医療経済中心、あるいは医療者中心主義に陥りやすいことは経験上よく知られていることです。生活の場である「お家（うち）」「家庭」は「日常」であるのに対して、入院医療は、病気が重症であればあるほど、また、入院が長引けば長引くほど、普通ではない「非日常」になりがちです。療養者の生命の質を守るための「日常の中で療養」に注目が集まるのも無理からぬことです。

「在宅緩和ケア」は、そうした声に応える手段のひとつです。